



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.4.2 No. 3567

春続闘報

全社員に低額回答を強制した JR総連・革マルのセク特的 ストもてあそび糾弾!

JR各社は、3月31日、1992年度新賃金について「最終回答」を行いました。
各社の回答内容は次の通りです。

JR北海道	4.65%	13,700円
東日本	5.57%	16,509円
東海	5.62%	17,213円
西日本	5.57%	(4/1以降回答予定)
四国		
九州	5.00%	14,538円
貨物	4.98%	14,865円

労務政策としての「最終回答」

この最終回答に当たって、各社は一様に、「景気後退局面」、「厳しい経営環境」を強調し、「労使の協力による業務の効率化」と「社員の奮起」を要求し、「会社のギリギリの判断」であるとしています。

しかし、われわれは、この表面上の理由とは別に、明確に、JR総連の

分裂・崩壊(国鉄分割・民営化で野合した反労働者集団同志の抗争)をめぐる「労務政策としての最終回答」であるという本質を厳しく見据えなければなりません。

「足もとを見すかさねた革マルスト」

JR総連・革マルは、「労使関係のよい会社ではストライキをやらない」と称して、JR東海、西日本、九州の3組合のみの48Hストを決定し、実施しました。

このストは、スト終了時間(立ち上がり)を一緒にできないほど、浮足立ったストライキだったため、政府・自民党に足元を見すかさね、東海に東日本より0.5%上乘せした回答を出させ、業績に開きのある西日本に東日本と同率の回答を出させ、さらに、九州に貨物を上回る回答を出させると同時に、北海道に全社最低の回答を出させました。

つまり、JR総連・革マルが「労使関係がよい」としてストに入れなかった3社が低額回答で、経

営者がストになることも辞さず「労働組合と闘っている」3社には比較的高い回答を出させて、ストライキを憎悪する「世論」をマスコミなども動員しており立て、より会社に忠実な労働組合にしていこうとしているのです。

「またもや提案・即妥決」

このような低額回答をJR東日本、貨物の革マル分子が「提案即妥結」としてしまったことは、やる気もないストをセク特的にもてあそび、資本・当局に、それを逆手にとられて、JR東日本、貨物の全社員に低額回答を強制する結果としてしまったことを意味しています。

「さらに原則的闘いを!」

われわれは、この間、会社間格差を許さないためには、労働組合の原則を守る闘いが必要であることを確信し、闘い抜い

てきました。
真の格差攻撃粉碎は一分割・民営化一を肯定するところからは論理的にあり得ません。
われわれは、われわれの92春闘を、JR総連・革マルのセク特的ストもてあそびを糾弾し、低額・格差回答をはね返す闘いとして、さらに全力で追求しなければなりません。

★ 住所・電話番号が変わります!!

千葉市中央区要町2-8
☎ 260

本部	043	(222)	7207
協販部	043	(227)	7833
カナム	043	(227)	6832
FAX	043	(224)	7197

※ 住所は4月1日から、☎は4月29日から。